此度江戸より近国に至大地震あり其中にて火災起其由縁と例ひきとて爰に記
大清今の唐の名なり道光十五年
十二月廿四日暁に北方より南方へとび行ものあり其形長髪を背に垂冠と頂き汚緋の衣を着剣を帯るに来其相貌るの如
是を四川唐の名所総督雄碩の家士幸丁宜見届主人に告る
雄碩占て曰是地震在て火災成べしと云て一円に觸其用意せしむ
同史東馮阮李の二士ハ是を聞て密に嘲笑て
其夜大震して山を裂城郭を傾し民家を揺潰其間に火災起て騒乱云斗なし
右東馮阮李も押潰され是一族家士三百余人同死雄碩方ハ破損ありといへども死亡火災を脱しは是其慎深き徳と前見の速なるに依所と聞人深感称せり
爰に安政二卯年十月朔日夜寅ノ刻浅草寺五重塔の方より南方へ飛行の者あり其疾こと矢を射ごとくにて暗見ざると雖其体前文に説所の如にして是を見るもの下谷長者町荒物屋卯兵衛といふものにて右異形に怖病を発し同所安倍周真に治療を希て又右の旦形を見ると具に談ぐに周真大に驚此異形某も見
尚外にも見届る者三五人有由にて又前説雄碩の吏を奉読て変災の心得をなさしむ故此度の横難を脱るる又本所林丁芝田主馬是をもて同所の玄明堂に占せしに前文の異人の相貌則馬に似て又馬にのる易に判ずる時は是 ☲ 離為火の卦と成又南方へ行南又午方にして火に備ふ又変て ☲ 火雷噬嗑となる是を以古に噬嗑は物を以て不合の意又離いたるところ大変皆火く正是地震有て火災あらんと知る果二日夜四時の変動に実に名人の観察恐べし尊べし是以諸君後日の用意にもならんと其趣を告のみなり
本所
角田川
浅草寺
五重塔
吉野氏蔵板